

氏名（本籍）	星 谷 丈 生（東京都）
学位の種類	博 士 （音 楽）
学位記番号	博 音 第 92 号
学位授与年月日	平 成 19 年 3 月 26 日
学位論文等題目	〈論文〉モートン・フェルドマンの1970年代の独奏楽器を伴うオーケストラ作品 について
論文等審査委員	
（総合主査）	東京芸術大学 教 授 （音楽学部） 川 井 學
（副査）	” ” （ ” ） 浦 田 健次郎
（ ” ）	” ” （ ” ） 船 山 隆
（ ” ）	お茶の水女子大学 ” （文教育学部） 近 藤 讓

（論文内容の要旨）

本論文の目的は、モートン・フェルドマンの（1926～1987）1970年代の独奏楽器を伴うオーケストラ作品の特徴を明らかにすることである。先行研究におけるフェルドマンの作品分析は、独奏作品や室内楽作品に限られ、オーケストラ作品についての詳細な分析は、あまり多くないのが現状である。しかしながら、とりわけ大規模なオーケストラ作品には、室内楽作品と異なる手法が多く見られており、その特徴を整理する。

第1章では、モートン・フェルドマン概要として、初期の作品から1970年代の作品に至るまで、記譜の変化と作品の変遷について整理する。特に初期の図形楽譜の作品については、いくつかの例を挙げながら、図形楽譜の不確定な性質が作品の演奏に与える影響について考察する。又、作品を生み出した背景として、フェルドマンと関わりのあった人物についても触れる。

第2章では、フェルドマンの作品を分析する際の方法論について考察する。まず初めに、フェルドマンの作品の全体構造と部分構造の関係について述べ、次に作品の構造を分節する際の問題点について触れる。更に作品の内容を特徴づける4つの性質について述べ、具体的に楽譜のどのような部分に着目して分析を進めるかについて提示する。特に音程構造については、オーケストレーションの問題と結び付けて考察する。

第3章及び第4章では*Cello and Orchestra*及び*Oboe and Orchestra*の2曲について分析する。この2作品は、和音構造や形式の面において、70年代の作品の特徴が顕著に表れていることから、詳細に分析を行う。初めに作品全体の概観を捉えた後、和音、リズム、ダイナミクス、オーケストレーションなどを各項目にわけて細かく分析し、加えてそれらが具体的にどのように結びついて効果を挙げているかについて考察する。又、第4章第2節では、残りの3曲の独奏楽器を伴うオーケストラの作品の特徴について、それぞれ述べる。

第5章では、第4章までの分析結果を踏まえて、フェルドマンの作曲技法について項目別に整理する。又、オーケストレーションの傾向について考察するとともに、和音やダイナミクスが作品の全体構造とどのように関わっているかについても述べる。更に、フェルドマンの作品の聴取と記譜の関係についても、言及する。第3章、第4章の作品分析を通して、フェルドマンの作品が、非常に綿密な考察の下に作曲されていることが明らかになった。しかし、そのような細かい配慮がある一方で、作品の構造は常に曖昧な状況に置かれ、様々な解釈が許されている。結論ではそのようなフェルドマンの作品の特徴を確認すると共に、伝統的な記譜法によって書かれたフェルドマンの作品と、図形楽譜で作曲された初期の作品の共通点、相違点について言及した。